

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870501224		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホーム オリムピア兵庫		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区小松通5丁目1-14		
自己評価作成日	2018年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成30年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症になっても、誇りを持ってこれまでどおりの暮らしを安心して続けていただくお手伝い」を理念に掲げ、利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、パーソンセンタードケアを提供している。家庭的な環境の中で、利用者のこれまでの人生をよく知り、グループの持つ力を活用することにより、残された能力や可能性を最大限に引き出すケアを行っている。また、デイサービス、ショートステイ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を併設し、住み慣れた地域で継続的にケアを受けられることができる、小規模多機能ホームであることも大きな特徴である。地域に開かれたコミュニティカフェ「Cafe Olympia」を併設し、地域住民とともにSalon de l'Olympia(コンサート・落語会等)や「オリムピア福祉塾講座」を開催するなど、地域との協働も多い。さらに、スウェーデンをはじめとする国内外からの見学・実習の受け入れや、大阪大学大学院などの研究機関と共同研究を実施するなど、認知症ケアの発展にも力を注いでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合福祉施設オリムピア兵庫の中のグループホームである。入居者一人ひとりが、居心地よく過ごせる環境が整えられている。希望にあわせた日常的な外出や家族の協力を得ながらの一泊旅行、献立作りから調理など、利用者本位の暮らしが継続できるよう取り組んでいる。コミュニティカフェ・イベント・福祉塾の開催、ボランティア・実習生・見学者の受け入れ等、利用者の地域交流と事業所の地域貢献を継続している。介護記録・会議議事録等を適切に整備・管理し、支援・実践内容を記録として残している。研修・行事・バックアップ体制等複合施設のメリットを活かし、利用者の生活の質向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリンピア兵庫の理念、そして理念の実践のための3つの約束を作成し、毎日の朝礼、内部研修等を通じ、全スタッフで共有、実践をしている。また、新しいスタッフには必ず理念を確認する事から始めている。	法人の理念、理念を実践するための「3つの約束」を、館内掲示と朝礼時の唱和で共有を図っている。理念に地域密着型サービスの意義・役割を採り入れている。新入職員合宿、配属後のOJTで理念について学ぶ機会を持ち、理念の理解と浸透を図っている。各ユニットで理念実践のための、年間ビジョンと月間ビジョンを作成し、毎月のカンファレンスで実践状況を確認している。人事考課制度での目標設定に、理念の実践に向けた項目も採り入れ、自己評価と面談を通じて理解度・実践状況を振り返っている。ホームページにも理念を掲載し、入居者・家族とも共有しながら、地域での事業所への理解に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の外出、買い物等、「地域で暮らす」ことによる地域交流を図るとともに、毎年、祭りなど地域の行事への出店や参加をし、地域住民と共同でSalon de l'Olympia(コンサート等のイベント)を開催するなどしている。	日常的に、散歩・買い物等外出時に、地域の人と交流し、食材の購入等は地域の商店街を利用している。毎年、ふれあい祭りなど地域行事に出店し、地域住民と共同でコンサート等を開催している。カフェではランチ等を近隣の人に提供し、イベントとして夜カフェも開催している。傾聴等のボランティアや保育園児の来訪があり、節分には馴染みの店から豆まきに来訪し利用者の楽しみとなっている。地域住民を対象にした福祉塾講座の開催、高校生の福祉体験学習・福祉専門学校や教職課程の実習生受入れ等、地域で必要とされる役割や活動を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉塾講座等の勉強会を開催したり、地域の認知症に関する相談に乗るなど、現場での経験を共有している。また、引き続き館長が神戸市認知症介護サービス研修の講師を務めたり、地域での講演活動も積極的に行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、「月間オリンピア」という冊子を作成し各ユニットの日々の生活や行事の様子を紹介、報告し、質向上のための話し合いをしている。出された意見はユニットで共有し、サービス向上に取り組んでいる。入居者も数多く参加している。</p>	<p>利用者・家族代表、地域包括支援センター職員、地域代表、知見者等をメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。利用者はユニット毎に複数名が参加している。家族には開催案内を送り、出来るだけ多くの家族の参加を呼び掛けている。会議では「月刊オリンピア」を配布し、生活の様子や行事等について利用者の感想等を聞きながら報告を行っている。地域包括支援センター職員から地域の高齢者の動向等についての情報を受け、サービスの向上に活かしている。参加者からの要望や意見等は、リーダー会議等で検討し改善策を次回に報告している。「月刊オリンピア」に運営推進会議の会議内容を掲載し、家族・地域等に配布している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは日常的に情報交換を行い、協力関係を築いている。また、館長が市の研修で講師を務めたり、市担当者からの依頼で国内外からの見学・実習を受け入れたりもしている。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、会議を通じて事業所の取り組みを伝えている。館長が神戸市認知症介護サービス研修の講師受託や開催内容について市と協働している。市の新任職員を研修の一環として受け入れ、国外からや民生委員の見学依頼にも対応して市と協力関係を築いている。市の研修、グループホーム連絡会への参加を通じて、事業所間の取り組みや課題を伝えながら情報交換を行っている。認知症サポーター養成講座開催時には、地域包括支援センターと連携して講師受託等の協力を行っている。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	トップを含め全職員が身体拘束廃止の理念を共有している。定期的に身体拘束廃止の研修を実施しており、特に新入職員へは、ひとつひとつの具体的なケアのあり方を丁寧に説明・指導するようにしている。また、玄関のドアは日中施錠せず自由に出入りができるほか、心理的なロックをかけないように取り組んでいる。	身体拘束廃止を重要事項説明書に明記し、契約時に家族等に事業所方針を説明している。年間研修計画に沿って、理事長研修・新人研修・事業所内研修等で継続的に身体拘束をしないケアの実践について周知を図っている。研修内容毎に「研修実施記録」を作成し、研修に参加出来なかった職員には、DVD・議事録の回覧で周知している。行動を制限するような発言等、心理的な拘束についても、ユニット会議等で意識向上に努めている。玄関ドアの施錠は行わず、ユニット間の往来も自由にでき、閉塞感のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を定期的実施し、虐待の定義や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。また、日々のケアにおいても、言葉使いの一つから虐待につながりそうな危険がないか、常に注意し、スタッフ間で話し合う機会を設けている。	虐待防止についても、拘束廃止と同様の方法で学ぶ機会を確保している。不適切ケアについての研修も実施し、常にスタッフ間で話し合う機会を設けている。ストレスチェックを実施するとともに、必要に応じてリーダー面談を促し、早期解決に努めている。OJT実施時はリーダーが週単位で介護技術等の習熟度評価を行っている。家族との外出・外泊時には、利用者の現状報告と介護負担軽減のための助言を行っている。入浴時等には「外傷チェック表」で身体状況を観察して、事業所内外での虐待防止に取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用について研修を行い、管理者や職員が知識を深める場を設けている。また、必要と思われる利用者については、関係機関への橋渡しを早急に行っている。	「権利擁護に関する制度の理解と活用」についての研修を実施し、定期的に学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、後見人への報告や書類送付等、活用のための協力支援を行っている。職員は実務を通して理解を深めており、今後、制度利用が必要と思われる利用者については、管理者が関係機関と連携しながら支援する仕組みがある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、利用者や家族の立場に立って、十分に理解してもらえるように説明を行っている。また、疑問点に関しては速やかに解決できるよう、対応している。	契約前の見学・申し込み・面談の段階に応じて、事前説明を行っている。契約時には、運営規定・重要事項説明書・契約書等の内容に沿って説明を行い、疑問点には速やかに対応し同意を得ている。入院時や重度化時の対応は詳細に説明している。契約改定時は、基本的に新旧比較書面を作成して同意を得ている。契約終了時には、契約書の条項に沿って、法人内のバックアップ体制も説明しながら情報提供を行い、円滑な移行に向け支援している	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご家族懇談会を開催するほか、家族も含めた食事会等の行事、運営推進会議、など、意見・要望を聞く機会を数多く設けている。出された意見・要望は職員で共有し、速やかに運営に反映させるよう取り組んでいる。	運営推進会議には複数名の利用者・家族の参加があり、意見・要望を外部者に表せる機会となっている。家族懇談会では意見交換を行い、議事録を資料と共に全家族に送付している。面会時は近況を報告し、毎月発行する「月間オリンピア」で生活の様子や行事について伝える等、家族が意見や要望を表しやすいよう取り組んでいる。ケアプラン見直し時にも、計画以外の要望等の把握に努めている。また、クリスマス会等行事には家族を招待するなど、意見・要望を聞く機会を数多く設け、要望等はユニット会議で検討しサービス向上に向け取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	館長が管理者がリーダーおよび全スタッフ対象に定期的に面談を行っているほか、現場に定期的に行き、スタッフに声をかけるようにしている。食事会を催すなど、日常的に職員が意見や提案をしやすい関係性を築いている。また、法人全体として、職員の提案を積極的に採用する方針を定めている。	ユニットカンファレンスに管理者も参加し、業務分担、業務改善等職員の意見・提案の把握に努めている。出された意見等は、議事録に残し、次回のカンファレンスで実施状況を確認している。人事考課制度の個人面談時に、職員がリーダー・管理者・館長と個別に意見交換する機会を設けている。管理者は、リーダー会議・主任会議に参加し、職員の意見等を上位者に伝える仕組みがある。利用者の状況に応じた職員の業務分担の調整等、職員の意見を運営に反映させている。利用者との馴染みの関係に配慮し、異動は公募制を採り入れ最小限にとどめている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりが毎年目標を設定し、それに対する自己評価および上司による評価を実施することによって、向上心をもって働ける環境を整備している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業目標として「質の高い人材の育成」をきっかけ、職員ひとりひとりに必要とされる技能や知識を把握し、それぞれの段階に応じた研修やトレーニングの機会を積極的に提供している。年1回のスウェーデン研修も実施している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の施設や同業者との交流を通じ、サービスの質を向上させるように取り組んでいる。また、他施設からの見学・実習の受け入れも積極的に行う他、パブリシティやシンポジウム等を通しての情報発信も積極的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	パーソンセンタードケアに基づき、ご本人の思いや不安、要望に耳を傾け、ご本人が望まれる環境を作れるように努めています。また、個別に日々のご本人の行動、言葉を詳細に記録し、ケアに繁栄しています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに、管理者およびユニットリーダーが、利用者本人や家族と面談をしたり、ホームを訪問してもらう機会をつくったりし、信頼関係を構築し、不安や疑問を取り去った上でサービスの導入を行うようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の機会をもうけご家族と、ご本人がその時置かれている状況の把握に努め、その時必要とされている支援を行うようにしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の「お手伝い」をさせて頂くという、オリンピアの理念のもと、介護する側、される側ではなく、共に生活をする上で個々を尊重させて頂いています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などの来所時はもちろんのこと、細かな報告を定期的に行い、関係作りに努めている。一つ一つのケアを相談させて頂く事で、一方の立場だけで無く、共にご本人を支えている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでご本人が築きあげてこられた関係、人生をよく知り、ご家族の協力も得ながら、馴染みの人との面会や、思い出の場所への訪問を支援するなど、これまで大切にしてきた関係性を途切れさせないように努めている。	利用開始時に把握した馴染みの人や場所についての情報は「生活歴シート」に記載し、日々の関わりの中で把握した情報は「個人ノート」に蓄積し職員間で共有している。友人・知人等の来訪時には、フロアーや居室などでゆっくり過ごせるように配慮している。宝塚歌劇、馴染みの商店街・美容院等への同行や、家族の協力を得て馴染みの場所への外出支援を依頼している。手紙やはがきのやりとりも支援している。また、行事等で、法人内の他事業所の馴染みの利用者との交流機会や、新たな馴染みの関係づくりも支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々ご利用者同士の関係性の把握に努めています。日常的に協同作業や、外出を多く支援し、利用者様同士の関係が広がるようお誘いをさせて頂いています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了の理由には異なりますが、自宅に戻るため、あるいは長期入院のために退居した利用者とも必要に応じて連絡を取り、必要な支援を継続している。またそのご家族ともイベント等を通じて積極的な交流を継続し関係を守っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の生活の楽しみや、趣味を知り、日常生活の中でその方にあった生活を送って頂いております。生活の中でも選択のある生活をして頂いており、意思表示の困難な方でも、ご家族の協力を仰ぎ、把握に努めている。	利用開始時に把握した思いや意向を「入居前面接シート」に、入居後の日々の生活の中で把握した情報は「個人ノート」に記載して、得られた情報を職員間で共有している。介護計画見直し時には、本人・家族の意向等を把握し計画に反映させている。意思の疎通が困難な人は、生活歴等家族の情報を参考にし、筆談の活用、日常生活の中での選択肢の提示、表情・反応等から利用者の視点に立って検討し、個別の楽しみや趣味を活かすことが出来るよう支援や計画に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族の協力によって、ひとりひとりの個人史を把握しているほか、嗜好や生活環境についても、本人や家族から詳細な情報を得るように努めている。また、得られた情報は全スタッフで共有し、日々のケアに生かすようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとりひとりの日々の状態、残されている力を、偏見や思い込みにとらわれないように、常に本人との接点の中で把握するように努めている。変化した点については、小さなことであっても職員間で情報共有を行うように取り組んでいる。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人はもちろんのこと、家族の希望やアイデア、そして職員の日々の気づきを介護計画に積極的に反映させている。ご本人、ご家族、スタッフ、かかりつけ医と相談のもとプランを作成している。また、毎月のユニットカンファレンスにおいてモニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成・実践している。	アセスメントシート・面談シート・本人の状況観察等を基に、初回の計画を作成し、基本的には3ヶ月毎に計画を見直している。新たな計画書をユニット毎に掲示する等で、計画内容の意識づけを図っている。計画に沿った実施状況をケース記録に記載し、毎月のモニタリングを経て3ヶ月毎に評価を実施し、次の計画に繋いでいる。カンファレンスでモニタリング内容等を振り返り、支援内容変更や見直し必要性の有無などを検討している。計画内容の微調整を行った時は、カンファレンス議事録の回覧により周知している。計画作成時には、利用者、家族の意向・希望を確認し、かかりつけ医・看護師等関係者の意見も採り入れチームで作成している。	介護計画見直し時のカンファレンス議事録には、見直しの趣旨・把握した関係者の意見等を明記する等、記録方法の工夫が望まれる。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の発される言葉を中心とし、一日一日の様子が分かるよう、またスタッフの働きかけ(ケア)や行動を個々の記録に残し、共有している。気づきや、発見、変更点をユニットカンファレンスに落とし込み、介護計画に活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームにいながら、デイやショートに遊びに行ったりと従来のサービスの枠にとらわれず、利用者ひとりひとりの状況やニーズに応じた、柔軟なサービス提供に取り組んでいる。また、オリンピア兵庫として、デイサービス・ショートステイ・ホームヘルプとを組み合わせ、小規模多機能ケアに取り組んでいる。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街や老人会等と協力し、地域資源を把握するとともに、日常的に出かけることで積極的な関わりを持ち、利用者ひとりひとりにとって安全で気楽な暮らしをして頂けている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>グループホームとして3名の医師がかかりつけ医としており、ご家族と相談のもと、納得した医師を選ばれている。また、その方の馴染みの行きつけの病院がある際も、その病院との関係を継続して頂ける様支援させて頂いている。</p>	<p>契約時に利用者・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医での受診を支援している。事業所には、3名の医師がかかりつけ医として往診しており、受診結果等は「申し送りノート」に記録し、家族には異変等があれば電話連絡をしている。通院については、基本的には事業所が支援し、家族が行う時は、直近2ヶ月程度のバイタル表を託けている。受診結果は「入居者通院記録」に記載し、特記事項は申し送りノートで情報の共有を図り、適切な医療を受けられるように支援している。必要に応じて、歯科等の往診もある。</p>	<p>往診時の記録について「往診記録」書式の作成等、医療に関する情報共有が的確に行える仕組みづくりが望まれる。</p>
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師とは話し合いの上、情報の共有を徹底している。小さな事でも相談をし指示を仰ぎ、看護師からも日々アドバイスを頂いている。看取りや入院者の早期退院の受け入れに繋がっている。</p>	/	
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>担当医師、地域医療連携室との連絡をこまめに取ることで早期退院に繋げている。入院時には面会に頻繁に伺い、状態を把握し、病院とのカンファレンスにも出させて頂く事で関係づくりに努めている。</p>	<p>入院時は「サマリー」や、かかりつけ医からの診療情報提供書で、利用者のADL・暮らしぶり等の情報を提供している。入院中は家族とも連絡を取りながら面会に行き、地域医療連携室等関係者と状況確認や情報交換を行いながら早期退院に向けた支援を行っている。病院にノートを設置して家族とも情報交換を行っている。退院前には可能であれば、カンファレンスに参加し、退院後の生活に活かせるよう努めている。入院中に把握した情報は申し送りノートに記載し、退院時には看護サマリーの提供を受け、退院後の支援に繋いでいる。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者入居時に重度化に関する説明を行い、確認をすると共に、ご様子の変化の時期に応じて随時、医師、ご本人、お家族、管理者、スタッフでのカンファレンスの場を設け、チームとして支援に取り組んでいる。	家族等の希望があり、高度な医療的処置を望まない等一定の条件のもとで看取りを行う方針がある。契約時に、重度化した場合や終末期において事業所が対応出来ること、出来ないこと等を「指針」で説明し、家族の意向を確認して同意を得ている。重度化・終末期を迎えた段階で、かかりつけ医・家族等を交えてカンファレンスを開催し、家族等の意向に沿った支援に向け計画を見直している。カンファレンスの内容は議事録に、実施状況は個人記録に残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフが緊急事態に対応できるように、内部研修を定期的開催したりしている。また、利用者への個々の対応に関しては、普段よりユニット事で想定されうる事態をシミュレーションしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間想定・夜間想定消防避難訓練を実施している。また、地域の消防署・交番等とも日常的に情報交換を行い、緊急時への備えを行っている。	29年度に2回消防署立会いのもと、法人施設合同で、昼間・夜間 想定総合訓練 を利用者も参加して実施していることが記録から確認できる。訓練では、出火場所に応じて避難経路を決め、訓練実施後には評価を行い、次の訓練につなげるよう記録を残している。運営推進会議を通じて地域へ協力を呼び掛けるとともに、「兵庫区防災協会」に加入し、地域の炊き出し訓練への参加等、地域との連携・協力体制を築いている。水・食料や、備品等は法人施設共同で備蓄し、栄養士が管理している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝、朝礼で「オリンピア兵庫の理念」「オリンピア兵庫の3つの約束」を唱和し、新人研修より「オリンピア兵庫の理念」「オリンピア兵庫n3つの約束」を意識してご利用者とお話できるよう指導し、ご利用者に敬意を持って日々のケアを行っている。	一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保について、理事長研修の他、各種の研修で学ぶ機会を確保して理解を深めている。研修では、理念の「3つの約束」等の意識づけを行い、敬語の使用等利用者の尊厳やプライバシーの確保について周知している。年間・月間ビジョンにも、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を掲げ、日々の生活の中で利用者がその人らしい尊厳のある生活が継続できるように支援している。不適切な対応等があれば、リーダーが注意を促している。個人記録は、鍵付き書庫に保管し、写真使用については、月間オリンピア発行の都度了解を得ている。	写真使用について、ホームページ・月間オリンピア・館内掲示等に区分して書面で同意を得ておくことが望まれる。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン更新の際、ご利用者の思いをお尋ねし、希望を叶える為に企画を立て実行している。ご家族からご利用者の昔の様子をうかがい、その生活に近くなるよう努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人です」というオリンピア兵庫の理念のもと、毎日のご利用者の体調や様子を見て、ご利用者の過ごしたいようにすごしていただいている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品がお好きな方には、日常的にさせていただく機会を作ったり、入居する前に通われていた美容室に行っていたいたり、化粧品を買われる等、おひとりおひとりにあったおしゃれを楽しんでいただいている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際、食事の話題を提供させていただき、好きなものや食べたいもの等、希望をお尋ねし、メニューに取り入れたり、外食をしていただいている。ミキサー食の方でもおいしく召し上がっていただける様、見栄えや種類を工夫している。	献立は週単位で各ユニットの担当者が、利用者の希望等を採り入れて作成し、施設の栄養士が栄養バランスなどをチェックしている。食材は旬の素材にこだわり、季節感が味わえるよう配慮し、近隣の商店から購入して各ユニット職員が輪番で調理している。食事形態や好き嫌い等にも対応し、食器も陶器等個別のものを使用している。準備・調理・味付け・盛り付け・後片付けなど、利用者の好みや力に合わせて職員と共に行っている。職員も席を共にして食事を楽しみ、家庭的な雰囲気づくりに努めている。ユニット毎や個別の外食機会、また、行事等で家族と共に食事を楽しむ機会を設けている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士チェックのもと、メニューやカロリー、量に注意している。水分は季節に合わせた水分量を調べ、こまめに水分を摂取させていただき記録に残している。食事量が少ない方には必要に応じ医師と相談し、カロリー摂取できる栄養補助食品を取り入れる等、対応している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人お一人の口腔状態に合わせた口腔ケアを行っていただける様にしている。定期的に歯科受診をしており、歯科医のアドバイスを参考にしている。		
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者おひとりおひとりに合った排泄ケアをさせていただいている。ご利用者の状態や希望を伺い、日中と夜間の排泄ケアを変えている。できる限り、トイレで排泄していただける様、支援している。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。事業所では早めの誘導により退院後には布下着の状態に戻れるようカンファレンスで検討し支援に努めている。また、車イスの人も極力昼間は、トイレでの排泄を大切に支援している。誘導時の声かけの工夫や扉を閉めて外での待機等、羞恥心の軽減やプライバシー確保に努めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の好みの飲み物で水分摂取をこまめに行い、便秘の予防をしている。便秘の場合は、看護師付き添いのもと、下剤や浣腸等で対応している。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のその日の体調や気分注意到し、週に2.3回は入浴して頂いています。毎日入浴されたり、その方に合った時間に入っていたり、朝、昼、夕関係なくいつでも入れる様、対応している。	基本的には週2～3回、更湯で午後入浴としているが、個々の意向、生活習慣に沿いながら夕食後の入浴等も対応している。身体状況に応じて施設の機械浴の利用も可能である。入浴を嫌がる利用者には、同性での介助、職員の変更や声かけ等を工夫し、無理強いはせず個々の状況に応じて、入浴できるように支援している。好みのシャンプーや入浴剤の使用、また、ゆず湯の機会を設ける等、入浴が楽しめるよう支援している。個室で、利用者の状況によっては外で待機する等、プライバシーや羞恥心の軽減に配慮している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間の決まりをこちらで設定する事無く、おひとりおひとりに睡眠ペースで休んで頂いております。照明や環境などにも注意し、安心して休んで頂ける様配慮している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員ひとりひとりが確実に薬の目的や用法を理解し、適切な服薬の援助ができるように、看護師と情報の共有を行っている。特に、新しい薬が処方されたり、薬が変更された場合、確実に申し送りを行い、誤薬等の事故の防止に努めている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとりひとりが責任や役割をもって日々の生活を送ることができるように、個人史等も活用しながら、支援を行っている。また、日課や趣味をこれまで通りに楽しむお手伝いをするほか、常に新しいことにチャレンジし、毎日たのしみがあるようなケアを心がけている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望や気分を伺い、気軽に外出できるように支援を行っている。、家族との協力のもと、・沖縄旅行・有馬温泉・淡路・ネスタリゾート宿泊など今年も本人の希望を実現できた。	日常的に利用者の希望、天候等に沿って、近隣周辺や商店街への散歩や買い物に出かけている。また、ふれあい祭り等地域行事やイベントへの参加など地域に出かける機会を数多く設けている。気候の良い季節には、離宮公園や動物園等への外出行事を企画・支援して、五感刺激による心身の活性化を図っている。車イスの人も、車イス対応車の使用、電車利用等で均等な外出機会の確保に努めている。沖縄旅行・ネスタリゾート等普段は行けないような場所にも、家族の協力を得ながら外出できるように支援している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望によりお金を所持していただいております、そのお金でお買い物や外食を楽しんでいただいております。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロアに電話を置いており、いつでも電話をかけていただけるようにしている。中には携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる、そのまま持ってお使い頂いている。また、ご入居前の知人との手紙、年賀状などのやりとりも継続して頂いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オリンピア兵庫は、高齢で認知症の利用者が「暮らしやすい」空間づくりへの配慮し設計されています。また、各ユニットをひとつの「家」として捉え、季節に合わせた飾り付けや植物、また音楽などを工夫させて頂いております。	ユニット間が廊下でつながり、自由に行き来ができ、利用者に閉塞感を与えない環境である。また、換気・湿温管理・清掃・整理整頓にも心掛け、居心地よい共用空間づくりに努めている。リビングには、ひな祭り等季節ごとの飾りつけ、金魚やメダカの水槽、行事の写真・利用者の作品等を飾り、また、季節ごとにベランダの花を植え替え、季節感や生活感を採り入れている。テーブル・ソファ・椅子・畳スペースを設置し、一人でくつろいだり、少人数で過ごすなど、思い思いに居心地よく過ごせるよう工夫している。共用スペースにある調理場からの調理風景や匂いが五感刺激となり、家庭的な雰囲気を作り出している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一つのユニット内に数箇所ソファや、椅子を用意し居場所を作っている。そのときどきの人間関係や気分も考慮して、たくさんの居場所を提供している。また、「死角」も積極的に活用し、安心して過ごすことのできる居場所づくりに取り組んでいる。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がこれまで使い慣れた家具、思い出の写真や品々、そして好きな物に囲まれた居室づくりを、ご本人と一緒にやっている。家族からも伺いご本人の落ちつける空間を目指している。	ベッド・クローゼット・洗面台が備え付けられ居室はゆったりとした広さがある。ダンス、テーブル等の家具・宝塚歌劇や趣味を楽しんでいたころの写真・利用者の作品・冷蔵庫等、馴染みのものや道具・思い出のものが持ち込まれ、その人らしい環境で落ち着いて過ごせるよう支援している。持ち込みの少ない利用者には、職員が協力してバースデイカード等好みの物をそろえ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の「自立」のサポートの考えを基本に、環境作りを考えている。皆様の状態の変化に応じた模様替え、安全なスペースの確保、生活感のある環境を意識している。		